



アジア学院卒業生というと、
アフリカの大地や太平洋に浮かぶ小さな
島国にいることをイメージしませんか？
実は皆さまのお近くに、卒業生がいる
かもしれません！80人以上いる ARI の
日本人卒業生の大半は日本で
活躍していますし、日本で活躍する海外の
卒業生も何人かいます。
この新しいコラムでそういう
「お近くの」卒業生たちを紹介します。

Shimizu



Harue

“はじめまして。2004年度のアジア学院卒業生の清水晴恵(しみずはるえ)と申します。
現在、アジア学院の学生時代に作った、アジア学院でつながっている日本人のメーリングリストにて、「つながる☆連載リレー」と称して

皆さんの今を投稿してもらおう活動をしています。そんな経緯から、「アジアの土」でもアジア学院でつながっている日本人の「今」を共有したいとお話を受け、私が最初にこの原稿を書かせていただいています。

私がアジア学院の研修生だったのが、今から12年ほど前のことです。アジア学院を卒業し、今振り返ってみて、私が学んだ本当に大切なことは、「That We May Live Together」という「価値観」だったと思います。

様々な文化的背景や経歴を持った仲間たちと、逃れられない(!?)共同生活を通じ、向き合っ分り合おうとすること、お互い助け合うことの大切さを学びました。そして、身体で経験することがいかに重要かを体験した1年間となりました。

アジア学院を卒業した後、8年間ほど公務員として働きました。東京の離島での産業振興、東日本大震災の被災地での復興計画策

定支援や用地買収、東京のと真ん中での防災業務等、様々な部署で働かせてもらう機会を得ました。

歯を食いしばって働くほど大変な時期もありながら、少しでも皆が笑顔になるように、困っている人が減るように、私ができる最大限の努力をしよう、そう思って働いてきました。なんでもこんなにも「servant」的な、おめでたい「価値観」で働けるのか考えたとき、アジア学院で得た「価値観」が影響していると思いました。

現在は、東北地方で働きたいという気持ちもあり、今年の3月に仕事を退職し、4月から宮城県の大学院に通っています。「震災復興施策」の研究をするつもりが、まさかの「循環共生型社会形成による地域活性化」の研究をすることに!

私は今、「That We May Live Together」という「価値観」を持ち、あるべき社会とは一体何なのかを考えながら、日々勉強しています。